

平成20年10月24日

第4回 奈良中心市街地交通処理対策検討委員会 議 事 録

1. 開催日時 平成20年10月24日（金）10:00～12:00

2. 開催場所 奈良国道事務所 4階会議室

3. 出席者

委員長 飯田 恭敬（京都大学名誉教授）

委員 国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所長

委員 奈良県土木部長

委員 奈良県土木部まちづくり推進局長

委員 奈良県地域振興部文化観光局長

委員 奈良県警察本部交通部長（代理：交通規制課長）

委員 奈良警察署長（代理：副署長）

委員 奈良市副市長（代理：奈良市政策監）

委員 奈良市観光協会長（代理：総務課長）

事務局 奈良県土木部道路・交通環境課

国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所

4. 議 事

◆事務局より以下について説明がありました。

【第1回～第3回委員会の経緯について】

・第1回～第3回委員会での決定事項についての説明

【社会実験について】

- ・11月8日、9日に一方通行規制、歩行者空間の確保、公園内周遊バスの運行、パークアンドライド等の渋滞対策等の社会実験を行う。
- ・渋滞対策として、国道24号高架下駐車場の拡充、奈良市役所駐車場の解放、シャトルバスの運行、看板チラシ等による広報、リアルタイム所要時間情報提供を実施する。
- ・社会実験実施にあたり、公共交通への転換、通過交通の迂回誘導によるエリア1への進入車両の減少、種々の情報提供によるパークアンドライド駐車場の利用台数の増加及び迷走車両の減少等について、交通量調査、アンケート調査等により検証を行う。

【目標設定の考え方について】

- ・今後、平城遷都1300年祭事業及び将来大和北道路整備後における渋滞対策の具体的目標値を設定し、中心市街地における交通処理施策を検討していく。

◆その後の審議の中で、以下の点について意見が出ました。

- ・ シャトルバスのルートについて、東から西への片側ルートになっているが逆方向も考えられる。方向については検討する余地があるのではないか。また、近鉄奈良駅にもバス停が必要。将来的には、乗り換えは利用者には不便であるので、できればシャトルバスルートと周遊バスルートを統合することが重要であり、今回は、地域活性化や渋滞をさける目的で片側ルートとしているが、今後、結果をアンケートで把握し検討したい。
- ・ 目標設定に関して、迷走車両の10%をカットというのは、交通量は毎回変動するので、抽象的でわかりにくいので今後評価について検討したい。
- ・ エリア2の通過交通を減らすというのは、実際問題として難しい。エリア2の交通を減らすのであれば、例えば規制と案内を組み合わせた効果的な検討をしないとイケないのではないか。
→今回P&R駐車場をエリア内に設けた結果を受け、どのような課題があるか調査し、今後1300年祭に向け参考としたい。
- ・ 情報提供に関しては、遠方から情報提供を行うことが重要である。例えばVICSや民間サービス等を活用しTDMに効果がでるようにしていければと思う。ITS施策については、今後の検討としたいが、今回は中部地方含め広範囲に広報を行っている。
- ・ エリア1について、エリア内の駐車場の待ち行列が渋滞の原因となっている。このためP&Rを利用された方のインセンティブ向上として駐車場予約システムを組み合わせる検討を今後願います。

◆次回委員会では、社会実験の効果について分析、検証した結果を基に今後展開する交通施策について議論を進めていくこととなりました。

以 上